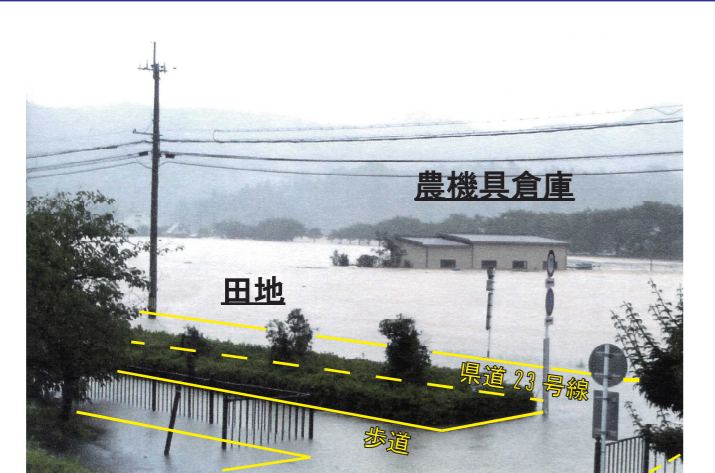


高島市朽木野尻水害履歴マップ その①

(H27.10.2 高島市朽木野尻集会所で行った聞き取り調査に基づき作成)

— 地域特性 —

凡例	
	河川
	洪水時の水の動き
	建物



完全に田畑が水没し、
県道 23 号線も浸水している。
(撮影年：平成 25 年 9 月)

野尻は安曇川・北川の合流点に位置するため、朽木地域で降った雨が全て野尻の前を流れる安曇川に集まってくる。

野尻の背後の西山に降った雨水が流れてくる。

山際には土砂災害の危険の高い所もあり、水害と合わせ避難場所や避難ルートを選定が要検討。

県道 23 号線で最も低く、このあたりから浸水し始める。

安曇川の川幅が狭くなっており、増水時にはここがボトルネックとなって水が流れにくくなる。

増水時、孤立する。

安曇川が増水時、上手側と下手側の両方向から浸水してくる。その水の流れはほとんど無く、静水である。

増水時に、安曇川の水はこの辺りから堤防を越えてくる。

山神橋
避難所の朽木中学校へはこの橋を渡って行かなければならず、北川の状況によっては避難できない可能性がある。

歴史的に、水害被害を多く受けてきた。

昭和34年伊勢湾台風の時など、過去に何度か壊れている。

指定避難所
朽木中学校

調査参加者の意見

- ・県道が水に浸かりそうになってからの避難勧告では遅い。
- ・早めに安全な所へ避難することが、ためらいもなく出来る環境にしていきたい。
- ・野尻では、100%の人が逃げることを目指したい。(釜石の奇跡は、元々わかっていたリスクに備える行動がとれたもので、釜石の方は奇跡でないと語っていた。)
- ・遠くからでも避難完了を確認できるように、地元の人だけにわかるような避難完了の目印を準備すべき。
- ・老人会中心に、実際に検討している。
- ・まずは自身の身の安全を確保することを第一にするべきだ。
- ・からぶりでもいいから、危険になる前に、早め早めに安全なところへ避難するべきだ。
- ・避難しようとしていない人たちを避難させるような説得が大切である。
- ・北川ダム計画が完遂されていれば、平成 25 年のような被害は起きなかった。
- ・下流の安曇川町を守るために、野尻が被害を受けなければならないのはおかしい。